

さわやかCPAP便



医療法人

大竹内科呼吸器科医院

H29年1月発行

あけましておめでとうございます

第62号



大竹院長の挨拶

あけましておめでとうございます。

大竹内科呼吸器科医院は開院して13年目を向かえようとしております。睡眠時無呼吸症候群は開院当時と比べ認知度も高まり、当院でCPAPによる治療を受けている方はまもなく900名になろうとしている状況です。

最近週刊誌、ホームページなどで医療に関する情報があふれ、間違った情報がさも本当のように報じられています。睡眠時無呼吸症候群の分野でも経鼻呼吸チューブにヒントを得て作られたものが夢の治療器として話題になっています。その治療器の効果の根拠となる論文をみれば軽症～中等度までを対象にしており、AHI=30.4回/時の方は19.1回/時までの改善に留まっています。重度の睡眠時無呼吸症候群に対し効果があったとTVで報道されましたが、それがすべての患者さんに当てはまるものとは思えません。安易にこの装置がCPAPの代わりになるものと考えるべきではありません。

情報があふれている現在、どの情報が正しくてどの情報が誇張されたものなのか患者さんが判断することが難しい世の中になりました。当院としましては、エビデンス（事実）に基づいた治療を心掛け、できる限り正しい情報を発信していきたいと考えています。疑問がありましたら、院長、病院スタッフまでお気軽にお尋ね下さい。

新スタッフ紹介



鈴木 孝栄

昨年9月からお世話になっています鈴木です。内科勤務は初めてですが、毎日楽しく働いています。一日でも早くみなさんの名前を覚えられる様頑張ります。よろしくお願いします。



岩田 典子

検査技師の岩田です。患者さんとのコミュニケーションを大切にし、良い睡眠により健康的な生活を送ることができるようにサポートしていきたいと思っております。よろしくお願いします。

認知症と睡眠時無呼吸症候群(SAS)

睡眠時無呼吸と高血圧や心臓病、脳梗塞との関係はいつも診察室でお話ししていますが、最近、認知症とも深い関係があることが研究で分かって来ました。

認知症とは

認知機能の障害によって社会生活が困難になる病気を総称したものです。代表的なものがアルツハイマー型認知症ですが、他にも色々種類があります。2020年には80歳以上の約1割が認知症の患者になると予測されており、そのうち約7割がアルツハイマー型認知症と推定されているそうです。



アルツハイマー型認知症になる流れとしては

脳内にアミロイドβと呼ばれる特殊なたんぱく質が溜まる ⇒ アミロイド斑が沈着
⇒ 神経細胞の死 ⇒ 認知機能障害 というふうになっております。

そんな認知症ですが、ある機関で認知症の患者を対象に調べたところ、約9割に睡眠時無呼吸症候群があることが分かったそうです。睡眠時無呼吸症候群の患者は、無呼吸状態が続くと肺で換気が十分できず、血液中の二酸化炭素が溜まり、酸素が減少します。低酸素状態になると脳内にアミロイドβたんぱく質が増えるため、これが原因でアルツハイマー型認知症になるのではないかと考えられています。

認知症とCPAP



睡眠時無呼吸症候群が認められる患者は認知症が発症するリスクが2倍になるそうです。アメリカにおいて、認知症患者にCPAP治療を継続したところ、認知機能の改善したとの報告も数多くあります。認知症と睡眠時無呼吸症候群には密接な関係があり、認知症予防のためにも、1か月の使用割合が70%以上になるよう、CPAP治療を心がけましょう。

2017年の新年を迎え、益々のご多幸と健康をお祈り申し上げます。皆様の快適な睡眠をお助けできるようスタッフ一同丸となって頑張ります。今年もよろしくお願いたします。

